

ルール研修会 質問・要望 (平成28年度)

2017.2.11~12

質問事項

- 1 ゴールキーパーのレッグパッドの幅、ハンドプロテクターのサイズ等を計測する器具が国内では普及していません。今後の開発等は予定されていますか？
A ハンドプロテクター計測の具体的な数値が規則書に明記され、計測器具についても触れられていますので、次年度に向けて作成を検討しています。しかし、全てのハンドプロテクターを毎試合ごとに計測するのか、目視によって不確実なものを選別して計測するのか、もしくは1回計測したものは再度計測しないのか、ボールなどと同様に市販のものは規程品と位置付けて判断するのか等、運用についても検討しています。シーズン開始までには通知いたします。
- 2 ビデオアンパイアとSUMPのリファール時の適用方法を統一してはいかがでしょうか。
例えば、チャレンジを受けた時点で時計を止めてチャレンジを受ける。現在日本では、ボールがコートから出るか、反則があつてプレイが止まるか、時計が止まってからチャレンジを受けます。また、No advice やリファール失敗時の再開方法も統一してはいかがでしょうか。
A できるだけビデオリファールの規程に沿う形にしたいと思い現在すでに見直しを進めています。ただし、ビデオ判定と違いチャレンジを受けた時に時間を止めることを利用するチームが出てこないようにしたいと考えています。また、ご指摘の通りノー・アドバイスのチャレンジ権の未喪失なども検討しています。シーズン開始までには検討結果を通知いたします。
- 3 FIH から国際審判員向けに2017年からの体力テスト方法の変更 (YO-YO Intermittent Recovery Test) の通知が来ていますが、国内でも2017年度から適用予定でしょうか？また適用する場合は全てのカテゴリに対して (B・C級講習会等も含め) となりますでしょうか？
A 6人制を除く全ての大会・講習会でを行うように予定しています。
- 4 今回のルール改訂で変わる部分
A 毎回同様の質問を受けますが、この研修はこれこそが主たる目的です。
- 5 サークルの破線について、破線の存在しない競技場での審判をするうえで、PC時ボールがサークルから5m以上外に移動した場合には、それ以降は、ペナルティーコーナーの規則は適用されなくなるが、そのときのアンパイアのシグナルは統一されるのでしょうか。
A 破線が示されていない過去の過去は、手を挙げていました。FIHからは何も示されていませんが、必要なら手を挙げるか言葉を発するかをするようにしてください。

要望事項

- 1 フル装備のGKから、特権を持ったGKへの交代の際、ヘッドギアをゴール裏に置いてくる等、競技役員、チーム双方に理解が不十分で、交代に時間がかかる場面があります。今一度、共通理解を図り、円滑な交代ができるようにしたいですね。
A ヘッドギアを後ろに置くか否かで時間がかかるケースは殆どなかったと記憶しています。競技役員への理解不十分とはどのようなことなのでしょう？チームの理解不足が一部にあったのは事実ですが、通常のGK交代とさほど時間の差はないと認識しています。むしろパワープレイをするような状況では、その試合はかなり緊迫していて、GKを抜くことはチームにとっても重要な選択です。過度に時間を要するのは問題ですが、試合の盛り上がりや緊張感の共有は悪いことだとは思っていません。しかし、全般的に今一度規則理解を求めます。
- 2 審判員の判定に対して、複数で取り囲んだり、侮辱的な態度をとったり、しばらく指示に従わない場面を目にしました。国内ではあまり知られていませんが、APPENDIX 12 FIH CODE OF CONDUCT – GUIDELINE SANCTIONSにはそのような場面に対しては、レベル1～3までの罰則規定が示されています。日本でもこの規程を徹底し、それぞれの立場をお互いに尊重し合いながら試合が円滑に進むことを願っています。もちろん、そのような場面を生み出さな

- A** **FIH** コードにより、審判員を囲む行為の禁止、確認行為はチーム1名に限ることなどが示されていることは承知しています。規定を前面に出すと余計にお互いがぎくしゃくすると思います。最近、以前に比べるとチームや選手は随分紳士的に接していると感じています。むしろ、審判員やSUPがもっと判定に責任を持つべきです。本年度、大きなミスがありました。そのことによって資格審査室から示された処分は、審判員やSUPを含む競技役員に課せられた研修受講義務です。競技役員は再度自己研鑽を自覚して下さい。
- 3 国内で一般的に使用されているフォーンは冬季にガス圧が下がり、十分な音量を確保できない事があります。より確実かつ安定した音量を確保するために、他社のフォーンの提案や電気を用いたフォーンの研究開発をお願いしたいと思います。
- A** 施設用具課で検討いたしますが、優先順位は下がることはやむを得ないと思います。また、海外の充実した施設のようにタイマーや電光掲示板と連動したようなものにはなり得ません。電動などはすでにあります。
- 4 2016年度のルール説明会時に使用された資料のデータが大きく、ブロック内に周知（メール送信）する際、苦労しました。できれば、圧縮した資料を作成いただくか、何か工夫していただければ助かります。
- A** できる限り努力いたします。昨年度の資料は、映像を入れていたのでデータ容量が大きくなったと思います。映像データもほしいという要望もありますので、メール送信の方法をご検討いただくこともお願いいたします。
- 本年度は、ホームページにあげることにいたしました。ご活用ください。
- 5 本年度のD級審判員登録証は、登録証に年度が記載されており、年度を跨ぐ場合、有効期限が分かりにくかった。また、手書きまたはシール等で名前など記入するようなので、非常に手間がかかりました。D級は、ブロックで管理するので、D級用の登録証フォームをブロック審判長が管理するなどのご検討をお願いしたいです。
- A** 登録証に関しては、規定を次のように改定したので改善できるかと思います。新規登録の場合は、登録時点から3/31までとし、更新については、4/1から翌年3/31までとしました。ただ、D級の管理については、ブロック管理なのでブロック長が管理しやすいようにフォーム・登録証を作成していただけたらよろしいかと思います。（質問下線部の意図が分かりません。）
- 6 その時点で適用されている通達等をひとまとめにした一覧表を常にHPで公開してほしい。通達を見逃してもその一覧表を見れば分かるようにしてほしい。
- A** 通達は随時HPに掲載するようにしているかと思います。一覧表にするように努力いたしますが、一覧ではどうしてもポイントのみの表示になります。その際、文章だけが独り歩きをして湾曲した解釈になってしまうことは避けたいと考えています。今後検討していきます。
- 7 PC後の守備者のプロテクター（手・膝・顔等）の回収を、基本的にボールサーバーが実施するようになっていくと、もっとスムーズに2度目以降のPCが実施されるのではないのでしょうか？
- A** リオでも同様の光景を目にしており、検討すべきことだと認識しています。日本のすべての試合でボールサーバーに要請できるか疑問も残ります。すべてを含めて検討いたします。
- 8 国際と国内大会のルール統一を。（サゼッションアンパイアの使用（試合停止のタイミング、再開方法等）については、代表選手や国際審判員の混乱を防ぐためにも、ビデオアンパイアと同様にしてほしい。）
- A** 質問事項2で回答済みです。
- 9 日本リーグについては、対応可能な場合に限りサゼッションを入れてみるのはいかがでしょうか？（選手にとっては、サゼッション（ビデオ）アンパイアをいつ？どんな時？に使用するのか？経験する機会が増える方が強化につながる。また例えばサゼッションは、地元C級審判員でも担当可能という形にすれば、経費を含め人員の確保が容易となりますし、審判員としての経験値を増やす機会にもつながり、全体的な審判員の資質向上につながるのではないのでしょうか？
- A** 一つの方法ですので、検討いたします。ただ、C級にHJLの判定判断ができるか心配で、本来のサジェスションの目的が揺るいでしまう危険もあります。その場合、育成よりも逆に自信を喪失させることにもなりかねません。
- 10 （公式な国際大会は別として、）各カテゴリーの代表チームの国内合宿期間中での紅白試合（選手選考会を含む）、他チームとの練習試合・海外遠征・海外チーム招聘等、もっと審判員を帯同（参加）させ、経験させた方がよいのでは？

選手だけでなく、審判員も向上させていかなければなりません。

極端ではありますが、例えばアジア等の近隣諸国での海外遠征であれば、日本協会からの委嘱状さえあれば、経費は全額自己負担で参加するという意欲のある審判員もいるのではないのでしょうか？選手強化も必要ですが、審判強化ももっと実施し、国際大会にどんどん日本の審判員がアポイントされていく状況を作り出さなければならない。

日本が出場する国際大会に、日本の審判員（ジャッジ等含む）がいるのといないのでは、判定に影響が出てくるというのは、スタッフ・選手は何度も苦い経験をしてきているはずである。どれだけ選手強化をしても、審判の笛一つで試合結果が大きく左右します。

東京オリンピックに向け、多方面からチーム強化の方策を考え、実行していただきたいと思います。

A 言われていることは同感で、現在も限りなくそのようにしています。審判部の現在の目標は、東京オリンピックに男女の日本代表審判を出すように育成することです。もちろん他のアンパイアの全体的底上げも急務ですし、その他課題も山積しています。現在は、東京に向けた審判を絞って育成という時期になってきていることをご理解ください。

11 サジェスチョンアンパイアの運用について、チームリファールにおいて、サジェスチョンアンパイアでもカバーできない範囲があり、その場面での判定を求められたときの対応を明確にして頂きたいです。言うまでもございませんが、見る努力や位置取りをしておりますが、どうしても見えづらいエリアがあります。そのような場面で、リファールを使った場合、選手との温度差を感じました。見えていないものについて、白か黒かはつけられません。例えば、国際大会同様にビデオでも判定できない場合は当該アンパイアの判定を有効にし、且つ、チームリファールを継続する形を取るなどの措置が必要だと思えます。

A このことはよく理解できますが、大きな問題があります。審判員も同様に見えなかった場合もありますが、それを前提にした対処の方法は示していないということです。判断がつかなかった場合に、SUPはうそ（間違い）の回答や予測の回答をすべきではありません。その場合は、正直にノー・アドバイスを表現することも必要だと認識しています。その方法は制度として検討しますが、今のSUPは見る努力がまだまだ不足していますので、試合前に研修や確認をして、まず見えないことをなくしていく努力を、技術委員会では取り組みます。

12 35分制とは違うクォーター制のタイム管理や笛の吹くタイミングをご確認させていただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

A 現場での体験をお勧めします。この研修会では、心構えや知識の習得に力を注いでください。

13 ルール(もしくは解釈)が変更されるのであれば、身体的接触がどのプレイで許容され、どのプレイで許されないのか、具体的な事例を踏まえて教えていただきたいと思えます。

A 国際の情勢を踏まえて真技術委員会アドバイザーが提案説明をいたします。「どのプレイ」というよりも、そのプレイ自体は反則行為であっても、相手選手がその行為によってプレイをやめてしまわないこと、継続してプレイをさせたほうがアドバンテージになっている場合等が重要です。真講師が説明した通り、何か反則行為があるとすぐにアピールしてプレイをやめることや、笛を吹くことによって保身とするような笛は謹んでいかなければ、世界のホッケーに取り残されます。ビデオがあれば、見ていただきます。